

科目名 (英)	カウンセリング学 counselling	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	角田 友二
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月・火・水/5.6限
講師紹介	精神保健福祉士、臨床心理士、公認心理師。精神科病院でのソーシャルワーカーとしての経験、学校教育でのスクールカウンセラーとしての経験など40年位の臨床経験がある。また、大学や専門学校において小学校教員養成課程、保育士養成課程、精神保健福祉士養成課程、公認心理師養成課程などの非常勤講師も経験している。						
目的	歯科衛生士は歯科診療(口腔保健活動)におけるコーチであり、トレーナーでもありカウンセラーでもある。カウンセリングの基本的考え方と技法を習得し、患者さんの心理的な問題に対して、援助的なコミュニケーション技法を活用できるようにすることを目的とする。そしてユーザーにとって、職員集団にとって心理的安全性を意識した仕事の間を作り出せるようにすることも重要な視点として伝えていく。						
科目概要	患者さんの心理的不安や精神症状の基本的な知識を、講義やグループワークを通して習得すること。その上で、心理的ケアに資する言語的・非言語的コミュニケーションを工夫し、不安の軽減、精神疾患に関しては、他の専門職との連携をどのようにとったらよいか判断できることを目指す。						
到達目標	カウンセリングにおけるラポール形成の心理的ケアにおける役割を説明できる。 人の性格の違いを見立てて、それに応じた効果的なコミュニケーションの方法を指摘できる。 カウンセリングにおける主な技法を説明できる。 主な精神疾患の概要と治療法、どんな場合に医療につなげる必要があるかを説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	毎回の授業の終わりに小テストを行う。ポイントとなることを確認しながら授業に参加することが望まれる。また、毎回の授業で得た知識を、日常生活でのコミュニケーションの中で確認したり、他者との話し方、聴き方などを意識的にカウンセリングマインドで行ってみたりすることが、カウンセリングの力をつけるのに効果的である。		
参考図書	「心理セラピストが贈る魔法のコミュニケーション」他						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	カウンセリングとは(オンライン)	講義	「歯」をめぐる最近の動向をふまえて、歯科衛生士が心理学とその領域にあるカウンセリングについての智恵と作法を身につける必要性を概観する。映画「チャーリーとチョコレート工場」(ジョニー・デップ主演)からカウンセリングとは何か考えてみる。
2	心理的安全性のある働き方(オンライン)	講義	歯科衛生士の仕事のつらさ、難しさを理解して心理的安全性のある場とスタッフ集団にするためには何が必要かを考える。
3	口腔保健活動における心理的な視点(オンライン)	講義	最先端の歯科医療技術を活かして、ユーザーファーストな診療を行い、経営を向上していくためにも、ユーザーの心理的、社会的なことへの理解は重要であり、そのことへの理解を深める。
4	カウンセリング技法と実際の臨床での活かし方。自己決定と自己選択を目指していくサポート。(オンライン)	講義	つらい状況にあるユーザーに、どんな言葉がけが必要か、人に悩みを相談された場合、アドバイスをすることの利点と欠点について考える。カウンセリング理論(主に来談者中心療法)における、①受容、②共感、③繰り返し、④感情の反射、⑤感情の明確化、⑥要約等の基本技法の理解して他のカウンセリング理論についてもふれていく。
5	高齢者への歯科保健活動(オンライン)	講義	高齢者の健康寿命を延ばすためには、口腔ケアの重要性が指摘されるようになり、認知症の予防にも必要なこととしても考えられている。「高齢者イコール総入れ歯」というイメージではない、健康に咀嚼して・消化吸収して・排泄して・コミュニケーションする「口腔」を守るために、高齢者への関りはどのようなことができるかを考える。
6	精神疾患、発達に課題がある場合などにおける歯科診療(対面)	講義	こころの病といわれるうつ病や統合失調症、発達障害、精神遅滞、視覚障害などのユーザーの場合の歯科診療の際の配慮の智恵と作法の工夫を考える。
7	幼児、児童生徒への歯科保健活動(対面)	講義	幼児、児童生徒への歯科保健活動の実際を考えてみる。小学校3年生を対象とした、学校の教室での歯科衛生教室の展開を考えてみる。また、歯科医療機関において子どもの診療を行う際の智恵と作法の工夫を考える。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	キャリアデザイン講座Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	藤林 大和
		授業形態	講義		無		
(英)	Career EducationⅡ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	火・木/5.6限
講師紹介	情報処理から経理までを専門分野とし、現在3社のマーケティングアドバイザーとして活躍している講師が教えるIT講義。また、100年以上続く家業の四代目として、資産の運用から、マーケティング、社員教育までを実践している。						
目的	社会で働くうえで必要となるコンピューターの基礎的な操作法を身につける。						
科目概要	オフィスソフトを通じ、社会でのコンピューターの使われ方を学ぶ。データの閲覧・入力だけではなく下地から作成することにより、総合的に資料を作成することを学ぶ。また、プレゼンテーション資料の作成を通じ、情報の伝え方とそれに伴う資料の作成技術を身につける。						
到達目標	ビジネスの場におけるコンピューターの取り扱いを身につける。 ワード・エクセルを用い、文書作成や表計算の基礎的な技術を身につける。 パワーポイントを用い、プレゼンテーション資料の作成の技術を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	特になし			事前事後学習とその内容	授業内で作成する資料をデータにて提出し、それをもって小テストとする。 平素より、インターネットなども含め、コンピューターに触れるように心がける。		
参考図書	特になし						
特記事項	必要に応じてプリントを授業ごとに配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワードにおける表の作成	講義	ワードで表の作成を学ぶ。基礎的な文字入力や文字の装飾、表の組み方を身につける。実際に印刷し、掲示することを考え資料を作成する。保存やコピー、フォルダ管理など、コンピューター上で作成したファイルの取り扱いを身につける。
2	エクセルを用いて表を作成する	講義	エクセルの基礎的な操作を学ぶ。カレンダーの作成を通じ、表の構成を考え、作成する。出来るだけ作業量を減らし、短時間で表を完成させることを身につける。
3	基礎的な表計算と関数	講義	エクセルにおける数字の取り扱いや、計算方法を学ぶ。関数の入力方法や、実際の使われ方を身につけ、実践する。
4	条件によって変化させる関数	講義	金銭の計算を題材にした表計算を身につける。IF関数を用い、条件によって表示される内容を変化させることを学ぶ。
5	日付の計算とデータの検索	講義	日数や年数など日付の計算を身につける。入力したデータを検索し、表示させる関数を学ぶ。
6	プレゼンテーション資料作成1	講義	パワーポイントを用い、プレゼン資料の作成をする。実際のプレゼンテーションを見てどんなことができるのかを学ぶ。テーマに沿って全体の構成を決定し、内容を考える。
7	プレゼンテーション資料作成2	講義	良いプレゼンテーションにするためには何が必要で何が不要なのかを考える。観客に印象付けるための工夫を学ぶ。完成したプレゼンテーションを見る。
8	定期試験		筆記試験 科目目標の到達度を確認する。

科目名 (英)	薬理学・歯科薬理学 Pharmacology・Dentistry Pharmacology	年次	2	必修科目		科目 責任者	今井 敏夫/戸円 智幸
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	火・水・金/5,6限
講師紹介	【今井 敏夫】薬剤師としての臨床経験、教育経験を踏まえて、歯科衛生士に必要な薬理学・歯科薬理学を講義する。 【所属】日本歯科大学 名誉教授【専門分野】生理学・衛生学【研究】骨代謝のメカニズムの解明 【戸円 智幸】 【所属】日本歯科大学生命歯学部・准教授【専門分野】薬理学、化学【所属学会】歯科基礎医学会など 【研究】Demetomidine処理血管内皮細胞の間隙拡張作用						
目的	歯科衛生士が歯科保健・歯科医療に携わる医療チームの一員として、特に医療現場で必要な薬物の知識と技術能を養うことを目的とする。						
科目概要	薬理学は、解剖学、生理学、生化学、微生物学、病理学などを背景として、薬物を生体に与えた場合に生体が表す様々な反応について学ぶ学問であり、疾病の治療、予防および診断における合理的な薬物療法を理解するための知識を習得する。						
到達目標	始めに総論では、薬物の知識の全般(概論)を習得することを目標とする。すなわち、1)薬物の主作用・副作用、2)薬物の適用法と動態 3)医薬品の取扱いと関連法令などについて学ぶ。次に各論では、各薬物の基本的な薬理作用(主作用および副作用)の習得することを目標とする。すなわち、1)末梢・中枢神経作用薬、2)循環器・呼吸器系作用薬、3)止血薬、4)抗炎症薬、5)局所麻酔薬、6)抗悪性腫瘍薬、7)抗感染薬、8)消毒薬および9)歯科薬理学などについて学ぶ。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	疾病の成り立ちおよび回復過程の促進3.薬理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回、授業の最後に小テストを行い、授業への理解度を確認する。この対策には、授業前の予習として60分間程度の時間を要すると思われる。また、専門科目であり、はじめて学ぶ内容がほとんどであるためこれまで以上に授業後の復習を行う必要がある。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	講義の補助材料として、各授業テーマ毎にまとめたレジュメを配布する。(教科書は、医歯薬出版株式会社)						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論-1 : 薬物の定義、作用、薬物動態を理解する。	講義	(1) 薬物とは (2) 薬物の作用 (3) 薬物動態
2	総論-2 : 薬物の適用法、薬物の影響、薬物の副作用を理解する。	講義	(1) 薬理の適応経路 (2) 薬物の作用に影響を与える要因 (3) 薬理の副作用 (4) 薬物の投与指針
3	総論-3 : 医薬品の取扱い、薬物・医薬品に関する法律を理解する。	講義	(1) 薬物の取扱い (2) 処方せん (3) 薬物の配合変化と保存方法 (5) 医薬品医療機器法 (6) 劇薬・毒薬の表示と保管 (7) 麻薬、向精神薬、覚せい剤取締法 (7) 医薬品の開発
4	末梢神経系作用薬 : 末梢神経系に作用する薬物を理解する。	講義	(1) 末梢神経系の分類と機能 (2) シナプスと神経伝達物質 (3) 交感神経と副交感神経の働き (4) 交感神経作用薬・遮断薬 (5) 副交感神経作用薬・遮断薬
5	中枢神経系作用薬 : 中枢神経系に作用する薬物を理解する。	講義	(1) 中枢神経系の機能 (2) 全身麻酔薬 (3) アルコール類 (4) 催眠薬 (5) 向精神薬 (6) 抗てんかん薬 (7) パーキンソン病治療薬 (8) 鎮痛薬 (9) 中枢神経興奮薬
6	循環器系・腎臓作用薬 : 心臓と血管に作用する薬物と腎臓に作用する薬物を理解する。	講義	(1) 高血圧治療薬 (2) 不整脈治療薬 (3) 心不全治療薬 (4) 狭心症治療薬 (5) 利尿薬
7	呼吸器系・消化器系作用薬 : 呼吸器系と消化器系に作用する薬物を理解する。	講義	(1) 気管支喘息治療薬 (2) 鎮咳薬 (3) 去痰 (4) 消化性潰瘍治療薬
8	血液作用薬、抗アレルギー薬 : 血液およびアレルギーに作用する薬物を理解する。	講義	(1) 血液凝固の過程 (2) 止血薬 (3) 抗血栓薬 (4) 抗貧血薬 (5) 抗アレルギー薬
9	抗炎症薬 : 炎症のメカニズムとそれに作用する薬物を理解する。	講義	(1) 炎症過程とケミカルメディエーター (2) ステロイド性抗炎症薬 (3) 非ステロイド性抗炎症薬 (4) 解熱鎮痛薬 (5) 炎症酵素剤
10	痛みと薬、局所麻酔薬 : 痛みの発生と伝達のしくみおよびオピオイド系鎮痛薬と局所麻酔薬について理解する。	講義	(1) 痛みの発生と痛覚伝達路 (2) オピオイド系鎮痛薬 (3) 局所麻酔薬の作用機序 (4) 局所麻酔薬の種類 (5) 血管収縮薬の併用
11	ビタミン・ホルモンと代謝性疾患治療薬 : 主なビタミンとホルモンの作用と代謝性疾患治療薬について理解する。	講義	(1) 水溶性ビタミンの作用と欠乏症 (2) 脂溶性ビタミンの作用と欠乏症 (3) 主なホルモンの作用 (4) 糖尿病治療薬 (5) 骨粗鬆症治療薬
12	抗感染薬と消毒薬 : 抗感染薬の作用機序と消毒薬を理解する。抗悪性腫瘍薬の作用機序を理解する。	講義	(1) 抗感染薬の基本事項 (2) 抗感染薬の作用メカニズム (3) 抗感染薬の副作用 (4) 消毒薬の作用メカニズムとその特性 (5) 悪性腫瘍と抗悪性腫瘍薬
13	歯・歯髄疾患、歯周疾患に作用する薬物 : 齲蝕予防、歯髄保存療法の薬物を理解する。	講義	(1) 齲蝕の発症メカニズム (2) 齲蝕予防薬 (3) 歯髄の保存療法に用いる薬物 (4) 感染根管治療薬 (5) 歯周疾患治療薬 (6) 洗口薬 (7) 口臭予防薬
14	顎口腔粘膜疾患薬 : 口腔粘膜疾患、唾液疾患に用いる薬物を理解する。	講義	(1) 炎症性疾患に用いる薬物 (2) 口腔粘膜疾患に用いる薬物 (3) 顎関節症に用いる薬物 (4) 口腔乾燥症に用いる薬物 (5) 神経疾患に用いる薬物
15	定期試験	筆記試験	講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	衛生統計学 Hygiene Statistics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則 網干 博文 寺嶋 利子 本橋 佳子
		授業形態	講義		有		
		学科・コース	歯科衛生士科 II 部	時間数	15	授業回数	8
単位	1	曜日/時間	木/5.6限				
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な衛生統計を講義する。 尾崎 哲則: 日本歯科医療管理学会理事長・日本大学客員教授。 網干 博文: 日本大学歯学部特任教授。 寺嶋 利子・本橋 佳子: 日本大学歯学部非常勤講師。						
目的	歯科衛生士として必要である基本的な歯科衛生統計・疫学手法について、実際に使えることを目的とする。						
科目概要	歯科疫学の基礎から、その分析法としての統計学、集計、分析に関して学び、知識を身につける。						
到達目標	標本抽出について概説できる。統計の基本的な手法と統計量について説明できる。相関、推定・検定について概説できる。 スクリーニング試験について概説できる。 国家統計について概説できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	保健情報統計学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回授業の後半に小テストを行う。 次回授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に受けることができる。 この時間に30分程度要することが想定される。 また、授業後は演習問題を再度行なうことが重要であり、この時間に20分程度要することが想定される。		
参考図書	口腔衛生学—口腔保健統計を含む—(学建書院)						
特記事項	【プリント(補助教材)】 適宜配布する						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	衛生統計の役割	講義	地域歯科保健での衛生統計のもつ役割について理解する。 「数」のもつ意味について理解する。 健康事象を数値に置き換える意義について理解する。
2	基本統計量1	講義	基本的なデータのまとめ方が説明できる。 度数分布表・度数分布図を作成できる。
3	基本統計量2	講義	集団の代表値(平均・最頻値・中央値)が説明できる。 集団のバラツキ(偏差・分布・標準偏差)が説明できる。
4	標本抽出と母集団	講義	標本抽出法について説明できる。 基本的なデータ収集方法(横断調査・縦断調査)について説明できる。
5	推定・検定	講義	2つの数の関係でよく用いられる相関の概説ができる。 統計処理でよく用いられる検定・推定の概説ができる。
6	スクリーニングと統計	講義	スクリーニング試験について概要が説明できる。 代表的評価項目である鋭敏度・特異度が説明できる。
7	国家統計	講義	国家統計の種別が説明できる。 代表的な国家統計(国勢調査・人口動態統計調査・患者調査・学校保健統計調査・歯科疾患実態調査)を概説できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	保存修復学 Operative Dentistry	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	貴美島 哲
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			月・木/5.6限	
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な保存修復学を講義する。 【所属】医療法人社団明英会 貴美島デンタルオフィス理事長 【専門分野】保存修復学 【所属学会】日本歯科保存学会、日本接着歯学会、日本歯科理工学会 【執筆】保存修復21、保存修復学 他 【資格】日本歯科保存学会：専門医、指導医、日本歯科理工学会：デンタルマテリアルアドバイザー						
目的	保存修復学の概念ならびに基礎的事項を身につけながら、臨床において求められる知識や施術法を習得する。						
科目概要	保存修復学は歯科保存学の一分野で、う蝕を代表とする硬組織疾患の修復方法や修復材料、さらに疾患の予防・術後のメンテナンスを体系化した学問である。						
到達目標	歯の硬組織疾患の特徴について説明する。 歯冠修復時の前準備について説明する。 各種修復方法について説明する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保存修復・歯内療法 (医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容	前回の小テストを返却し解説を行う。前回の内容をきちんと振り返り、解説内容を理解し知識を定着させることが必須である。				
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	硬組織疾患とその検査方法	講義	保存修復学の概要を理解する。また保存修復治療における診査診断を行う際に有用な検査方法を理解する。さらに、う蝕を代表とする硬組織疾患の種類と病態について学習する。
2	窩洞と保存修復治療の流れ	講義	修復材料を保持するために、歯を切削し生じた空間を窩洞という。この窩洞の構成・分類・条件を理解する。また、保存修復の一連の診察の流れを理解する。
3	前準備処置、切削器械・切削具、および歯髄保護	講義	保存修復治療を行う際の前準備、特に歯間分離、歯肉排除、防湿法、隔壁法について理解する。また、歯の切削に使用される器具器材、切削後に行われる歯髄保護法について学習する。
4	セラミックインレー修復・コンポジットレジンインレー修復・ラミネートベニア修復について	講義	間接修復、歯冠色修復であるセラミックインレー修復・コンポジットレジンインレー修復・ラミネートベニア修復の特徴ならびに歯質への接着手順を理解する。
5	メタルインレー修復とグラスアイオノマーセメント修復について	講義	間接修復法であるメタルインレー修復の特徴、使用される各種合金について理解する。また直接修復であるグラスアイオノマーセメント修復の組成ならびに特徴を理解する。
6	コンポジットレジンの基本的な知識	講義	直接修復材であるコンポジットレジンの組成、種類について学習する。また、コンポジットレジンには歯と接着しないため、接着システムが必要となる。接着システムのメカニズム、種類について理解する。
7	コンポジットレジン修復の特徴	講義	光重合型コンポジットレジンの長所ならびに短所を理解する。また、コンポジットレジンを用いて修復する際に必要な器材や手順を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯内療法学 Endodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	前田 宗宏
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	金/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験や大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯内療法学を講義する。 【所属：日本歯科大学生命歯学部】・【専門分野：歯内療法学】・【所属学会：日本歯科保存学会、米国歯内療法協会、日本歯内療学会】【主な研究テーマ：炎症惹起歯髄内化学伝達物質への歯科用植物性揮発油類の生成阻害作用】・【分担執筆：歯内治療学第5版(医歯薬出版)、歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学(医歯薬出版)他】						
目的	歯内療法を理解するために必要な基礎的事項、治療理論および治療手技について理解する。						
科目概要	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因について理解する。歯髄炎、根尖性歯周疾患の症状、治療法を説明できる。						
到達目標	歯科衛生士業務における歯内療法の役割について説明できる。 歯髄疾患および根尖歯周組織疾患の治療法について説明できる。 歯内療法を実施するにあたり必要な器材、薬剤について説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保存修復・歯内療法学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	教科書や講義資料を使用し、授業毎の予習・復習を行うこと。講義内容で分からないことは、質問すること。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯内療法を学ぶ上で必要となる齶蝕の概要歯髄の機能、歯根膜や歯槽骨などの解剖学的知識、歯髄炎、根尖性歯周炎について理解する。	講義	歯内療法とはどんな歯科治療なのか？ 歯内療法における歯科衛生士の役割、歯の周囲の解剖 歯髄および根尖歯周組織にあらわれる疾患 歯の検査法
2	歯髄の保存療法について理解する。	講義	歯髄鎮痛消炎療法 覆髄法 a. 間接覆髄法 b. 直接覆髄法 c. 暫間的間接覆髄法] 歯髄の保存療法についての適応症を説明し、使用器材、薬剤など診療の補助に必要な知識を確認
3	歯髄の除去療法(生活歯髄切断法、抜髄法)について理解する。	講義	生活歯髄切断法の適応症、生活歯髄法の術式を確認する。 生活歯髄切断法に使用する器材および薬剤を整理する。 抜髄法の適応症、術式を確認する。 抜髄法に使用する器材および薬剤を整理する。
4	根管治療の術式、使用器材および使用薬剤について理解する。	講義	根管治療の適応症を知る。 根管治療の術式を確認する。 根管治療に使用する器材および薬剤を整理する。 無菌的な治療について説明する。
5	根管充填の術式、使用器材および使用薬剤について理解する。	講義	根管充填の適応症を知る。 根管充填(側方加圧充填、垂直加圧充填、シングルポイント法)の術式を確認する。 根管充填に使用する器材および薬剤を整理する。 根末完成歯の治療(アペキシゲネーシス、アペキシフィケーション)について確認する。
6	歯内療法に用いる器材、薬剤の取扱いについて理解する。 歯内療法施術時の安全対策について理解する。	講義	歯内療法に必要な器材、薬剤について整理する。 歯内療法における安全対策について説明する。 外傷歯の治療について説明する。
7	外科的歯内療法の種類およびその目的について説明できる。	講義	膿瘍切開法、根尖搔爬法、根尖切除法、逆根管充填、歯根切断法、歯根分離法 ヘミセクション、歯の再植法 上記の治療法について、名称および各治療法の目的について説明する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容の全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯周治療学 Periodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	清信 浩一
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月・木/5,6限
講師紹介	歯科医師として臨床経験を有し、大学の教員として経験豊富な講師が歯科衛生士として必要な歯周治療学を講義する。 所属学会: 日本歯周病学会、アメリカ歯周病学会(AAP) 著書: スケーリング&ルートプレーニング(学建書院) 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座非常勤講師、清信歯科医院 院長、日本歯周病学会認定 歯周病専門医						
目的	歯周疾患に関しての基礎的事項(歯周組織、原因、病態)を理解する。						
科目概要	歯周疾患や根尖歯周組織の疾患に対する予防及び治療方法を理解し、歯科臨床に応用することができる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患について理解し説明できる。 ・歯周治療の進め方を理解し説明できる。 ・メインテナンスの目的を理解し説明できる。 						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯周病学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業の終わりに小テストを行う事で、自分自身が授業内容が理解できたか確認を行うことが可能になるとともに、不足部分を復習で補うことが可能になる。次回講義の前にシラバスで示された項目部分の教科書に目を通すことで、講義の理解度が増すとともに、小テストの対策が可能になる。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授業計画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯周疾患の現状と歯周組織を理解する	講義	歯周疾患の現状を理解し、歯周治療がどんなものであるかをいくつかの典型的な症例の臨床的なスライドを通して学ぶ。 歯周疾患を理解するために、歯周組織の構造について正確な歯周組織の絵を描くことに挑戦する。
2	歯周疾患の分類を学び、歯周疾患の原因を理解する	講義	歯周疾患の分類、特に歯肉炎と歯周炎の違いについて正確に理解し、患者さん等に説明できるようにすることに挑戦する。 病気を治癒させるためには、症状を取り除くだけでなく原因を取り除くために歯科衛生士として何が出来るのか考える。
3	歯周治療の進め方を理解する	講義	歯周治療の進め方を理解し、治療を進める上で重要な、歯周疾患の診査法を学ぶ。 単に各種診査方法の手順を学ぶだけでなく、その診査法が何を調べているのかそして何が解るのか、治療にどのように利用するのかなど、より臨床的に考えることで将来自分がどのような診査法を選択するか判断材料を学ぶ。
4	歯周基本治療の目的、内容、実際について理解する(1)	講義	歯周疾患の原因を除去するためのもっとも重要な歯周基本治療について、その目的や内容を理解する。次の段階で行う歯周外科治療との違いを考えながら、どうして行うのか・どのように行うのか、にきちんと解答できるようになることに挑戦する。
5	歯周基本治療の目的、内容、実際について理解する(2)	講義	歯科衛生士が行う歯周基本治療に焦点をあて、口腔衛生指導について、色々な道具の特徴を理解しその使い方を習得するだけでなく、個々の患者さんによってどのように指導法を変えるのか考える。 スケーリングやSRPでは、その技術を学ぶとともに、治療の限界を理解する。
6	歯周外科治療の目的、分類、治療方法を理解する	講義	歯周外科処置の目的を理解し、その手術方法を学ぶ。 色々な症例の、臨床的なスライドを提示することで外科処置の目的、使用する器具、術式を理解する。
7	メインテナンスの目的を学び、その重要性を理解する	講義	歯周治療の流れの中でのメインテナンスの重要性を理解する。 メインテナンスにも色々なタイプがあることを知ることで、個々の患者さんにどのように適用していくかを考える。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科補綴学 基礎 Basic Dentistry Prosthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1		曜日・時間		木曜日 5・6限
講師紹介	<p>歯科技工士として、大学付属病院での臨床経験を持つ講師が歯科技工士としての専門的視点を踏まえ講義を行う。【所属】新東京歯科技工士・衛生士学校非常勤講師、技新会会員、技修会会員など【専門分野】歯冠修復技工学、顎口腔機能学【研究発表】フィードバックを用いた歯型彫刻法、位置や形態の違いによる金属口蓋板の装着体験、咬合理論から理解させる臼歯の蠟型採得法、臼歯の蠟型採得をスピードアップさせる効果的なトレーニング法 など【執筆】歯科技工小事典の執筆責任者(医歯薬出版)、国試問題集のブラッシュアップ委員(医歯薬出版)など【表彰】功労賞(全国歯科技工士教育協議会)、功労賞(職業教育キャリア財団)</p>						
目的	歯科診療補助を円滑に行うために必要な補綴歯科治療に関する基礎知識と治療の実際を理解する。						
科目概要	補綴治療の意義と目的、各補綴装置について、その全体像を理解する。各装置の構造や製作工程、歯科技工とチェアサイドの連携について確認し、歯科衛生士業務との連携を理解する。						
到達目標	補綴歯科治療に関する基礎知識を習得し、説明できる。治療におけるクラウン・ブリッジ治療の実際を習得し、説明できる。 補綴歯科治療における、クラウン・ブリッジ治療の歯科衛生士の役割について習得し、説明できる。						
評価方法	学則および学則施行細則に基づき、以下の項目で成績評価を行う。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科補綴学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業の終わりに小テストを行う。前もってその回の教科書を読んでおくことで授業を理解しやすくなる。		
参考図書	特になし						
特記事項	プリント資料は毎回配布 視覚教材(スライド)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	補綴歯科治療の基礎知識 歯列弓・咬合彎曲・咬合平面・基準平面	講義	補綴歯科治療の必要性を理解する。歯列と咬合について理解する。補綴学的基準平面について理解する。
2	顎口腔系の機能咬合様式 顎運動	講義	基本的な口腔の機能や咀嚼運動について理解する。咬合様式について理解する。運動について理解する。
3	補綴装置の種類とその構造 クラウン	講義	クラウンの目的や種類、構造を理解する。クラウンの種類とその装置の特徴を理解する。
4	補綴装置の種類とその構造 ブリッジ	講義	ブリッジの目的や構造、種類を理解する。ポンティックを分類し、それぞれの特徴を理解する。
5	補綴歯科治療における診査 医療面接と診察 口腔内の検査 スタディモデルによる検査 咬合検査	講義	補綴歯科治療における口腔内の検査方法と検査器具の種類について理解する。口腔内の検査に用いる器具の目的と使用方法を理解する。
6	クラウン・ブリッジ治療の実際 クラウン治療の流れ プロビジョナルレストレーション メンテナンス	講義	クラウン・ブリッジ治療の流れを理解する。口腔内の歯型や歯列を印象するための手順を理解する。プロビジョナルレストレーションの使用目的と製作手順を理解する。
7	インプラント治療の概要 インプラントの基本構造	講義	インプラント治療の流れを理解する。インプラントの基本構造を理解する。上部構造の固定方法を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科補綴学 Dentistry Prosthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	福富 源和
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数 (コマ数)	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1		曜日・時間		火曜日・水曜日 5・6限
講師紹介	歯科技工士として、大学付属病院での臨床経験を持つ講師が歯科技工士としての専門的視点を踏まえ講義を行う。【所属】新東京歯科技工士・衛生士学校非常勤講師、技新会会員、技修会会員など【専門分野】歯冠修復技工学、顎口腔機能学 【研究発表】フィードバックを用いた歯型彫刻法、位置や形態の違いによる金属口蓋板の装着体験、咬合理論から理解させる臼歯の蠟型採得法、臼歯の蠟型採得をスピードアップさせる効果的なトレーニング法 など 【執筆】歯科技工小事典の執筆責任者(医歯薬出版)、国試問題集のブラッシュ委員(医歯薬出版)など 【表彰】功労賞(全国歯科技工士教育協議会)、功労賞(職業教育キャリア財団)						
目的	歯科診療補助を円滑に行うために必要な補綴歯科治療に関する基礎知識と治療の実際を理解する。						
科目概要	補綴治療の意義と目的、各補綴装置について、その全体像を理解する。各装置の構造や製作工程、歯科技工とチェアサイドの連携について確認し、歯科衛生士業務との連携を理解する。						
到達目標	補綴歯科治療に関する基礎知識を習得し、説明できる。治療における有床義歯治療の実際を習得し、説明できる。 補綴歯科治療における、有床義歯治療の歯科衛生士の役割について習得し、説明できる。						
評価方法	学則および学則施行細則に基づき、以下の項目で成績評価を行う。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯科補綴学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業の終わりに小テストを行う。前もってその回の教科書を読んでおく授業を理解しやすくなる。		
参考図書	特になし						
特記事項	プリント資料は毎回配布 視覚教材(スライド)						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全部床義歯の臨床ステップⅠ	講義	全部床義歯の分類について理解する。 全部床義歯の構成要素について理解する。 概形印象から精密印象までの流れを理解する。
2	全部床義歯の臨床ステップⅡ	講義	全部床義歯の治療の流れと診療補助について理解する。 咬合採得・フェイスボウ・ゴシックアーチ描記・チェックバイトについて理解する。
3	全部床義歯の臨床ステップⅢ	講義	全部床義歯の治療の流れと診療補助について理解する。 義歯の装着後の調整方法について理解 不具合になった義歯 の修理やリベース・リラインについて理解する。
4	部分床義歯の臨床ステップⅠ	講義	部分床義歯の分類について理解する。 部分床義歯の構成要素について理解する。
5	部分床義歯の臨床ステップⅡ	講義	部分床義歯の構成要素である維持装置について理解する。 部分床義歯の構成要素である大連結子について理解する。 検査・診断や印象採得・咬合採得について理解する。
6	部分床義歯の臨床ステップⅢ	講義	部分床義歯の治療の流れを理解する。 義歯の装着後の調整方法について理解する。 義歯の着脱方法やメンテナンスなどの指導方法について理解する。
7	上下無歯顎症例に対するインプラント治療 特殊な口腔内装置	講義	上下無歯顎症例に対するインプラント治療について理解する。 特殊な口腔内装置について理 解する。
8	定期試験	筆記試験	講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔外科学 基礎 Basic Maxillofacial Surgery	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嵩 雅子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木・金/5.6限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士、新東京歯科衛生士学校副校長、昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師、日本口腔外科学会認定専門医、日本抗加齢医学会所属						
目的	顎・口腔疾患のみならず全身疾患との関連性を理解し、全人的医療の対応が出来る歯科衛生士としての知識を習得することを目指す。						
科目概要	口腔外科で取り扱う疾患、口腔疾患と全身あるいは全身疾患と口腔との関連について理解する。 代表的な口腔外科小手術の概要や診療と診断の介助、および滅菌・消毒などを覚える。						
到達目標	口腔外科で取り扱う疾患および診査や検査の目的を理解し、代表的な治療法について説明できる。 口腔疾患と全身疾患との関係を説明できる③消毒・滅菌について理解し、感染対策を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	口腔外科学(永末書店)			事前事後 学習と その内容	毎回授業後に小テストを行い、到達度を確認する。		
参考図書	顎・口腔粘膜疾患・口腔外科・歯科麻酔(医歯薬出版)						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔外科の概要を理解する 口腔領域(歯・顎・軟組織)の先天異常や発育異常について理解する	講義	教科書、配布プリントをベースに、口腔外科で取り扱う疾患の概要、口腔疾患と全身疾患との関連性、あるいは全身疾患の口腔症状など、歯科衛生士の役割について、また先天異常について学習する。
2	口腔領域の損傷、歯の外傷・顎骨骨折・軟組織の損傷と機能障害について、様々な病態を示す口腔粘膜疾患①について理解する	講義	教科書、配布資料をベースに、口腔領域の損傷、また口腔粘膜疾患①について学習する。
3	様々な病態を示す口腔粘膜疾患②や顎口腔領域(歯周組織・顎骨・顎骨周囲など)にみられる化膿性炎症疾患について理解する	講義	教科書、配布資料をベースに、口腔粘膜疾患②について、また口腔領域の化膿性炎症疾患について学習する。
4	顎・口腔領域にみられる嚢胞性疾患について、その特徴と病態・治療法について理解する	講義	教科書、配布資料をベースに、口腔領域の嚢胞について学習する。
5	顎・口腔領域に発生する腫瘍性病変について、その特徴と病態、鑑別・治療について理解する	講義	教科書、配布資料をベースに、口腔領域の腫瘍性疾患について学習する。
6	膿瘍・嚢胞・腫瘍について理解を深める	講義	グループワークをベースに、混同しやすい病態用語についてまとめ学習する。
7	口腔粘膜疾患について理解を深める	講義	グループワークをベースに、疾患の病態の把握と分類についてまとめ学習する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔外科学 Maxillofacial Surgery	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嶋 雅子/立川 哲史
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月・火・木/5.6限
講師紹介	三嶋 雅子: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士、新東京歯科衛生士学校副学長、昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師、日本口腔外科学会認定専門医、日本抗加齢医学会所属 立川 哲史: 歯科医師として臨床経験を有した講師が、歯科衛生士に必要な口腔外科学について講義する。 昭和大学全身管理歯科学講座歯科麻酔科学部門 講師 歯学博士 日本歯科麻酔学会認定医 専門医 日本障害者歯科学会所属						
目的	顎・口腔疾患のみならず全身疾患との関連性を理解し、全人的医療の対応が出来る歯科衛生士としての知識を習得することを目指す。歯科治療時に心地よくかつ安全な患者管理ができる歯科衛生士になるために、麻酔方法や全身管理方法を理解することを目標とする。						
科目概要	口腔外科で取り扱う疾患、口腔疾患と全身あるいは全身疾患と口腔との関連について理解する。 代表的な口腔外科小手術の概要や診療と診断の介助、および滅菌・消毒などを理解する。						
到達目標	全身状態の評価および術前管理の必要性について説明できる。バイタルサインが説明できる。モニタリングについて説明できる。 歯科医院での救急蘇生について説明できる。局所麻酔薬の作用機序について説明できる。歯科治療時の局所麻酔法について説明できる。 局所麻酔時に起きやすい全身偶発症が説明できる。全身偶発症の鑑別診断と対処方法について説明できる。歯科治療時に行う精神鎮静法が説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	口腔外科学(永末書店)			事前事後 学習と その内容	毎回授業後に小テストを行い、到達度を確認する。		
参考図書	顎・口腔粘膜疾患・口腔外科・歯科麻酔(医歯薬出版)						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時配布						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	全身評価・局所麻酔	講義	教科書、配布資料をベースに、局所麻酔法について学習する。 また、患者の既往歴の評価や医療人として知っておくべき全身評価についても学習する。
2	口腔外科の処置や治療の流れ、使用器具やその用途・目的について理解する	講義	グループワークをベースに、口腔外科の臨床現場において必要な知識をまとめ学習する。
3	精神鎮静法・全身麻酔	講義	教科書、配布資料をベースに、歯科治療時に必要な精神鎮静法・全身麻酔法について学習する。
4	救急蘇生・偶発症	講義	教科書、配布資料をベースに、一時救命処置をメインとした蘇生方法について学習する。 また、日常診療で会いやすい偶発症に関しても学習する。
5	顎関節疾患、唾液腺疾患および口腔領域にみられる神経性疾患について理解する。	講義	教科書、配布資料をベースに、顎関節疾患、唾液腺疾患および神経性疾患について学習する。
6	口腔外科診療の診療と診断、口腔外科における滅菌および消毒の意義や手法、創傷処置・消炎処置について理解する。	講義	教科書、配布資料をベースに、診療の実際および消毒・滅菌法、創傷処置、消炎処置について学習する。
7	抜歯術、口腔外科小手術の手法と介助および器材、処置に際しての注意事項、口腔出血の止血法や創傷処置と治療過程について理解する。	講義	教科書、配布資料をベースに、抜歯術やその他口腔外科小手術とその介助、口腔出血と創傷処置について学習する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	小児歯科学 Pedodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	大久保 孝一郎
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科II部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月・水・木/5.6限
講師紹介	<p>歯科医師として臨床経験を有した講師が、歯科衛生士に必要な小児歯科学について講義する。 神奈川歯科大学口腔総合医療学講座小児歯科学分野にて教員として小児歯科臨床・研究・教育に携わる。 令和3年2月よりきつぽーと歯科・矯正歯科クリニック院長。博士(歯学)、日本小児歯科学会認定専門医・代議員、全国小児歯科開業医会委員、神奈川歯科大学特任講師、横浜GRITSチームドクター、防衛省自衛隊募集相談員</p>						
目的	小児の成長発育を理解し、小児期の特性や口腔内の状況を把握したうえで、チェアサイドでの歯科衛生士の業務や役割についてを具体的に学ぶ。						
科目概要	小児歯科臨床において特徴的な治療法、歯冠修復、外科的処置、咬合誘導処置および予防法、診療時の対応法や注意点などを履修する。						
到達目標	<p>小児期にみられる口腔軟組織疾患について原因や治療の概要が説明できる。 小児歯科診療補助時の留意点や小児の対応法について説明できる。 歯冠修復法、歯内療法、外科処置、保険装置の概要について説明できる。</p>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	小児歯科学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	<p>予習としてに当日の学習項目について教科書に目を通す(20分) 復習としてノートした重要項目を読み返す(30分)</p>		
参考図書	必要に応じて授業内で紹介						
特記事項	視覚教材(スライド) 原則として人物や症例写真の撮影は不可						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	乳歯・幼若永久歯の萌出、歯の異常、小児期にみられる口腔軟組織疾患を理解することができる	講義	小児期にみられる口腔軟組織疾患について学習するとともに、小児歯科臨床現場において遭遇する歯科の問題について整理し理解する、また基本的な乳歯、幼若永久歯の特徴を理解する。
2	小児の正常な成長発育を理解し、小児歯科診療における診療補助の原則を理解することができる	講義	小児の心身の正常な発育と、生理的な特徴を理解し、一口腔一単位とした小児歯科診療の流れを理解し具体的な診療システムを知るとともに小児診療における診療補助の原則について学ぶ、また災害時における歯科衛生士の役割を理解する
3	小児の社会性の発達を理解し、小児への歯科的対応を理解することができる	講義	小児の心身の正常な発育と社会性の発達を理解し、生理的な特徴を理解し、診療に恐怖や不安が強い小児に対してどのような歯科的対応や工夫がなされているかを知る
4	う蝕の基本を理解し、乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法を理解することができる	講義	小児診療での診査法について学ぶとともに、齲蝕治療の方法について理解する(特に乳歯・幼若永久歯の歯冠修復法について)また、う蝕の予防方についても理解する
5	乳歯・幼若永久歯の歯内療法を理解することができる	講義	比較的重度なう蝕による根幹治療の方法や具体的に使用する器材・薬剤について理解する(とくに乳歯・幼若永久歯の歯内療法について)
6	乳歯・永久歯の外傷の特徴や処置法の概要について理解する	講義	小児の外科的処置の概要とともに応急処置、術後の注意点、外傷に関する治療法について学ぶ 乳歯・永久歯の外傷の特徴や処置法の概要について理解する
7	小児の保険装置の種類と特徴を説明することができる 小児歯科学における重要点・過去の国家試験の要点を理解することができる	講義	小児歯科で行われる咬合誘導(特に保険処置)について理解し、用いられる装置の種類や特徴について知る 小児歯科学の講義全体を通して、特に重要な範囲を再確認する。とともに過去の歯科衛生士国家試験の小児歯科学の範囲を振り返り、その要点を理解する
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科矯正学 Orthodontics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	中納 治久/松沢 喜姫/藤田 昭彦
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月・水・木・金/5,6限
講師紹介	歯科医師として臨床経験を有した講師が、歯科衛生士に必要な歯科矯正学について講義する。 【所属:昭和大学歯学部 歯科矯正学講座】【専門分野:歯科矯正学】 【所属学会:日本矯正歯科学会など】						
目的	歯科衛生士として必要な歯科矯正学に関する専門的知識を習得することを目的とする。						
科目概要	歯科矯正学を正しく理解するために、不正咬合の種類、成り立ち、治療法、予防などの基礎知識を習得する。さらに矯正歯科治療の実際を学び、矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割を把握する。						
到達目標	矯正歯科治療の概要について説明出来る。 矯正歯科治療に関係する成長・発育、正常咬合と不正咬合、診断に必要な知識メカニズムについて説明出来る。 矯正歯科臨床で用いる矯正装置、器具・器械を説明出来ると共に、歯科衛生士の役割を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯科矯正学 第2版(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業ははじめに前回の講義の復習小テストを行う。 この対策に30分程度要することが想定される。 とても重要なことは、授業を聞いてその場で講義内容を理解することであり、分からないことはその場で質問することを心がける。		
参考図書	ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策④ 令和4年版出題基準						
特記事項	講義内容(PowerPoint)を共有して授業を進める。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	1) 矯正歯科治療の概要
2	矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	2) 成長・発育
3	矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	3) 正常咬合と不正咬合 4-1) 矯正歯科診断
4	矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	4-2) 矯正歯科診断 5) 矯正歯科治療と“力”—矯正力・顎整形力・保定—
5	矯正歯科治療に関する基礎知識	講義	6) 矯正装置
6	矯正歯科治療の実際	講義	1) 実際の矯正歯科治療
7	矯正歯科における歯科衛生士の役割	講義	1) 矯正歯科治療で使用される器具 2) 口腔筋機能療法
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	障がい者歯科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	高橋 理/野原 通
		授業形態	講義		有		
(英)	Handicapped Person Dentistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	<p>歯科医師として豊富な臨床経験と教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な障がい者歯科学について講義を行う。</p> <p>高橋：広島大学歯学部、神奈川県歯科大学の専任教員として39年、神経系の機能と病態に携わる。</p> <p>野原：埼玉県中央病院感染制御部・歯科口腔外科部長、群馬大学医学部顎顔面口腔外科・形成外科講師、日本大学医学部耳鼻咽喉・口腔外科講師、日本化学療法学会感染制御専門医、日本口腔科学会専門医・指導医</p>						
目的	歯科衛生士が行う口腔衛生管理や口腔機能の維持向上の重要性を理解することができる。						
科目概要	障害者の現況、代表的な障害及び特徴、口腔所見、診療時の留意点について理解し、行動調整法や口腔衛生管理について理解する。						
到達目標	<p>障害の概念や障がい者を取り巻く環境について説明できる。</p> <p>精神遅滞・身体障害・精神障害の概要と口腔所見の特徴について説明できる。</p> <p>障害の種類に応じた行動調整法やコミュニケーション方法について説明できる。</p>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。</p> <p>()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	障がい者歯科学(医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	事前学習として、当日の学習項目に相当する部分に目を通しておく。復習としてノートの重要項目をチェックしておく。		
参考図書	なし						
特記事項	人や症例写真がある講義スライドの写真撮影は禁ずる						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	障害および障がい者とは	講義	障害の概念を理解したうえで障がい者(児)を取りまく環境や障壁、ノーマライゼーションについて学習し、支援体制の概要について知る。
2	知的障害(精神遅滞)とは	講義	精神遅滞における障害の特徴、原因、診療や口腔管理の留意点について学習する。また精神遅滞を合併する症候群としてDown症などの特徴、口腔内所見、留意点などを理解する。
3	自閉症スペクトラム障害およびその他の発達障害について	講義	自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動障害などを中心に、障害の特徴や診療上の問題点、対応について学ぶ。
4	神経・運動障害の概要について	講義	神経・運動障害の原因について整理し、各々代表的な障害の概要や口腔所見の特徴、診療時の留意点居ついて学ぶ。
5	精神障害および感覚障害について	講義	代表的な精神障害の特徴、診療時の留意点について学ぶ。視聴覚障害の留意点概要およびコミュニケーション方法など診療時の対応や留意点について学ぶ。
6	歯科診療時の対応と行動調整について	講義	障害児者の診療時の基本的な対応について理解するとともに、各種行動調整法の概要について学ぶ。
7	障害児者の口腔ケアと様々な問題	講義	障害児者と薬剤、摂食嚥下機能の問題について考え、器質的および機能的口腔ケアの方法や注意点、医療安全などの概要について学ぶ。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	高齢者歯科学 Dental Geriatrics	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート株式会社 城 明妙
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月・火・金/5.6限
講師紹介	訪問歯科及び高齢者歯科分野で実務経験を有した歯科衛生士が担当する。病院、施設、在宅、デイサービス等で実際に口腔機能向上のために実務を行っている。また、多職種に対し多くの研修を年間100本以上実施しているチームに所属する歯科衛生士である。						
目的	超高齢社会における歯科衛生士の役割を理解し、高齢者に必要な口腔衛生管理、口腔機能の支援が実施できるようになる。						
科目概要	高齢者に多い口腔と全身の疾患を理解し、高齢者の口腔管理、口腔機能を実施するために歯科衛生士として知っておくべき知識を習得する。						
到達目標	・高齢者の心身の特徴と超高齢社会における歯科衛生士の役割について理解できる ・介護保険制度と地域包括ケアシステムにおける多職種連携について理解できる ・嚥下障害の評価や訓練と口腔機能支援による低栄養の予防について理解することができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	高齢者歯科学(医歯薬出版)	事前事後 学習と その内容		1、高齢者が低栄養になるとどのようなことが懸念されるか考えておく。 2、終末期の口腔ケアに必要なことはどのようなことか考えておく。			
参考図書	なし						
特記事項	配布資料でも情報提供実施						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	超高齢社会の概要と介護保険制度の概要	講義	・高齢者を取り巻く社会と環境 ・健康寿命と平均寿命の違い ・高齢者に関わる法制度について ・介護保険制度について
2	高齢者の身体的、精神的特徴と疾患	講義	・高齢者の心、からだの特徴 ・老化と加齢の違いについて ・高齢者の口腔の特徴 ・高齢者に多い疾患 ・認知症の理解
3	高齢者の生活機能と栄養状態を把握する方法	講義	・生活・ADLの評価について ・認知機能の評価の方法 ・バイタルサインの理解 ・血液検査の知識 ・高齢者の栄養状態 ・低栄養とは ・服薬の知識
4	口腔のケアについて 口腔衛生管理と口腔機能管理について	講義	・高齢者の口腔に関する特徴 ・口腔をケアする方法(自立・介助) ・口腔ケアに用いる用具 ・有病高齢者への口腔ケア実施方法 ・要介護高齢者の口腔ケア実施方法 ・口腔ケア困難者への対応
5	高齢者の摂食嚥下機能について	講義	・摂食嚥下の仕組みの理解 ・高齢者に多い摂食嚥下機能障害 ・摂食嚥下機能の評価 ・摂食嚥下機能の訓練とリハビリテーション
6	高齢者に関わる医療と介護	講義	・周術期、急性期、回復期、終末期、在宅医療、それぞれに実施する事 ・訪問歯科診療と往診の違い ・訪問歯科診療で行うこと ・介護保険制度における訪問歯科診療の役割 ・歯科衛生士が行う居宅療養管理指導 ・介護予防とは？
7	地域社会における多職種連携と歯科衛生過程	講義	・事例をもとに歯科衛生過程を整理する ・アセスメント、情報収集、情報の分類 ・歯科衛生診断 ・計画立案 ・評価
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅲ Dentistry Prevention Measures TheoryⅢ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	久家 理恵/田熊 栄恵
		授業形態	講義・演習	有			
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	火・水・金/5.6限
講師紹介	久家 理恵:臨床実務経験10年。 田熊 栄恵:臨床実務経験17年。日本口腔インプラント学会所属。 歯科衛生士として経験豊富な教員が、臨床経験や海外ボランティア活動の経験を通じて、歯科衛生士として必要な予防処置論を講義・演習する。						
目的	歯科衛生士として歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できるよう、知識・技術・実践力を身につける。 また、相互実習を通して患者への適切な対応法を身につけ、臨床実習での実践に繋げていく。						
科目概要	患者の口腔内を観察し、各患者に適した治療計画を立て、処置ができるようになる。						
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生士のアセスメント・診断、計画立案、介入、記録、評価ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	専門用語が頻繁に出てくるので、予め教科書を読み予習しておくこと。実習後は、技術の復習をし、より確実に身につけることが望ましい。事前学習・事後学習において動画学習にて更に深く学ぶ事ができる。		
参考図書	消毒缶一式 その他 実技試験:顎模型 舌						
特記事項	【プリント(補助教材)】講義中に配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	う蝕活動性試験1	講義	う蝕リスク判断のために行う、う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。
2	う蝕活動性試験2 歯周病に関連する検査	演習	う蝕活動性試験を実施できる。 対象者のう蝕活動性を評価し、う蝕予防プログラムを立案できる。
3	小窩裂溝填塞法について 1	講義	小窩裂溝填塞法の目的・有効性を理解する。
4	小窩裂溝填塞法について 2	講義 演習	小窩裂溝填塞法の目的・有効性を理解して模型上で実施できる。
5	フッ化物応用について 1	講義	フッ化物によるう蝕予防法を説明できる。 使用薬剤の種類と濃度、およびその取り扱い方を説明できる。
6	フッ化物応用について 2	講義 演習	卵を使用しながら、フッ化物の作用がどのように作用するのかアクティブラーニングを行いながら楽しく展開していく。
7	患者実習について スケーラー復習	講義	患者実習に向けての身構え、気構え、心構えを理解する。 PMTGについて理解する。 スケーラー(シクルスケーラー、キュレットスケーラー)の使用方法を復習することができる。
8	スケーラー実習(ファントム)	演習	シクルスケーラー、キュレットスケーラーを正しく使用することができる。
9	超音波スケーラー・エアスケーラーの実践 (復習 マネキン実習)	講義 演習	マネキンを使用し、超音波スケーラー、エアスケーラーの手技を実践する。 金属スプーンを使用しながらどのように歯牙への影響があるのか、機器、器材の特徴の理解を深める。 また、紙面研磨について最終研磨確認を実施していく。
10	歯面研磨・歯面清掃について (復習 マネキン実習)	講義 演習	歯面清掃器の使用尾目的、特徴を説明できる。マネキンを使用し、歯面清掃の手技を実践する。超音波スケーラーで歯石除去を実践する。感染予防対策を実施しながら診療を実施することができる。
11	フッ化物歯面塗布法1 手用スケーラー実習(復習) 1ローテ目	演習	相互実習により綿球法・マウスピース法でフッ化物歯面塗布の手技を修得する。 患者実習に向けてシクルスケーラー・キュレットスケーラーを操作できる。
12	フッ化物歯面塗布法2 手用スケーラー実習(復習) 2・3ローテ目	演習	相互実習により綿球法・マウスピース法でフッ化物歯面塗布の手技を修得する。 患者実習に向けてシクルスケーラー・キュレットスケーラーを操作できる。
13	手用スケーラー実習(復習) 1ローテ目	演習	患者実習に向けてシクルスケーラー・キュレットスケーラーを操作できる。
14	手用スケーラー実習(復習) 2・3ローテ目 定期試験前まとめ	講義 演習	患者実習に向けてシクルスケーラー・キュレットスケーラーを操作できる。 定期試験前のまとめ授業が理解できる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅳ Dentistry Prevention Measures TheoryⅣ	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	久家 理恵/田熊 栄恵
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	火・水・金/5.6限
講師紹介	久家 理恵:臨床実務経験10年。 田熊 栄恵:臨床実務経験17年。日本口腔インプラント学会所属。 歯科衛生士として経験豊富な教員が、臨床経験や海外ボランティア活動の経験を通じて、歯科衛生士として必要な予防処置論を講義・演習する。						
目的	歯科衛生士として歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できるよう、知識・技術・実践力を身につける。 また、相互実習を通して患者への適切な対応法を身につけ、臨床実習での実践に繋げていく。						
科目概要	患者の口腔内を観察し、各患者に適した治療計画を立て、処置ができるようになる。						
到達目標	口腔疾患を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために必要な専門的な知識、技術および態度を習得する。 チーム医療、チーム歯科医療の一員としての歯科衛生士の役割を知ることができる。 人々のニーズに合った支援のため、歯科衛生士のアセスメント・診断、計画立案、介入、記録、評価ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 ■ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	専門用語が頻繁に出てくるので、予め教科書を読み予習しておくこと。実習後は、技術の復習をし、より確実に身につけることが望ましい。事前学習・事後学習において動画学習にて更に深く学ぶ事ができる。		
参考図書	消毒缶一式 その他 実技試験:顎模型 舌						
特記事項	【プリント(補助教材)】講義中に配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔内診査 歯周ポケット測定 1ローテ目	演習	プロービングにより得られる情報を理解し、歯周ポケットの測定方法を習得することができる。 プロービングにより得られた情報を列挙することができる。
2	口腔内診査 歯周ポケット測定 2ローテ目・3ローテ目	演習	プロービングにより得られる情報を理解し、歯周ポケットの測定方法を習得することができる。 プロービングにより得られた情報を列挙することができる。
3	患者実習術式の実践 (復習 マネキン実習)	講義 演習	マネキンを使用し、患者実習術式の手技を実践する。 患者実習に向けて身構え・気構え・心構え、必要な声掛け等含めて最終確認を実施していく。
4	患者実習術式の実践 (復習 マネキン実習)	講義 演習	マネキンを使用し、患者実習術式の手技を実践する。 患者実習に向けて身構え・気構え・心構え、必要な声掛け等含めて最終確認を実施していく。
5	歯面研磨・歯面清掃の実践 (相互実習)1ローテ	講義 演習	相互実習により歯面研磨・歯面清掃の手技を実践する。 感染予防対策、清潔域、不潔域を意識しながら実施することができる。
6	歯面研磨・歯面清掃の実践 (相互実習)2・3ローテ	講義 演習	相互実習により歯面研磨・歯面清掃の手技を実践する。 感染予防対策、清潔域、不潔域を意識しながら実施することができる。
7	歯面清掃、歯面研磨、超音波スケーラー・エアスケーラーの実践 (相互実習)1ローテ	講義 演習	歯面清掃、歯面研磨、超音波スケーラー、エアスケーラーなどの器械を用いた口腔管理の技術を相互実習により修得する。
8	歯面清掃、歯面研磨、超音波スケーラー・エアスケーラーの実践 (相互実習)2・3ローテ	講義 演習	歯面清掃、歯面研磨、超音波スケーラー、エアスケーラーなどの器械を用いた口腔管理の技術を相互実習により修得する。
9	患者実習リハーサル①	演習	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)および機械的歯面清掃が実施できる。 (1ローテ目)
10	患者実習リハーサル②	演習	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)および機械的歯面清掃が実施できる。 (2ローテ目)
11	患者実習リハーサル③	演習	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)および機械的歯面清掃が実施できる。 (3ローテ目)
12	患者実習リハーサル④	演習	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)および機械的歯面清掃が実施できる。 (1ローテ目)
13	患者実習リハーサル⑤	演習	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)および機械的歯面清掃が実施できる。 (2ローテ目)
14	患者実習リハーサル⑥	演習	歯周基本治療(スケーリング、スケーリング・ルートプレーニング)および機械的歯面清掃が実施できる。 (3ローテ目)
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅱ Dentistry Health Guidance Theory II	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	久保 早和子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	火/5.6限
講師紹介	歯科衛生士として幅広い分野での臨床経験を有し、特に訪問診療にて摂食・嚥下指導を中心に高齢者施設や、在宅医療に携わってきた専任教員が教育経験を活かして歯科保健指導論の授業を行う。						
目的	ライフステージ別における適切な口腔衛生指導を実施するために必要な知識を学び、実施できるよう演習する。						
科目概要	各集団、年齢に合わせた口腔保健管理ができるように、口腔清掃方法、コミュニケーション方法、指導方法を習得し、適切な保健指導を歯科臨床に応用できるようになる。						
到達目標	幼児期(4・5歳児)を対象とした集団での健康教育に必要な情報を収集し、健康教育の計画立案ができる。 口腔衛生状態をふまえて、口腔清掃方法の選択と指導ができる。 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業の予習として、次回授業までにシラバスに目を通し、関連する内容について教科書を読み、主体的に行動するよう心構えをする。授業形態が講義の場合、最後にその日の授業内容の小テストを行う。小テストに出題された問題は重要な部分をピックアップしているのでよく復習すること。		
参考図書	保健生態学(医歯薬出版)						
特記事項	講義内容のPowerPointを使用する場合がある。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	地域歯科保健活動における健康教育	講義	健康教育の対象と場の特徴を知る。 健康教育活動をするための情報収集の方法を知る。
2	地域歯科保健活動のフィールド	講義	地域歯科保健活動のフィールドを知る。 健康教育の計画立案ができる、健康教育の内容を理解する。 地域歯科保健活動の工夫と留意点を学ぶ。
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入 幼児期	演習	4・5歳児の一般的特徴と口腔の特徴、歯科保健行動を理解する。 4・5歳児の口腔衛生指導ができる。 4・5歳児の食生活指導ができる。
4	集団指導の媒体を作成する①	演習	4・5歳児の口腔保健指導について媒体作成計画案を考える。 指導素案を完成する。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P330～338
5	集団指導の媒体作成する②	演習	歯の本数(乳歯・永久歯)や萌生時期について学ぶ、健康教育媒体作りの参考にする。 4・5歳児における食育について知る、指導原稿作成し、読み合わせる。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P330～338
6	集団指導の媒体作成する③	演習	ブラッシング法・歯磨剤等についての復習し、健康教育媒体作りの参考にする。 スクラビング法における歯みがき指導の実技確認について振り返る。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P330～338
7	集団指導の媒体作成する④	演習	食育について復習し、健康教育媒体作りの参考にする。 幼児期の食事摂取基準について振り返る。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P330～338
8	各ライフステージ別の振り返り	講義	各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を理解する。 各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。 各ライフステージ別の食生活指導ができる
9	各ライフステージ別の指導案の素案を作成 する	講義	計画性をもって実施する。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P310～392
10	媒体を作成する①	演習	各ライフステージ別で決定した指導案をもとにまとめていく。
11	媒体を作成する②	演習	各ライフステージ別の口腔保健指導について媒体作成計画案を考える。 指導素案を完成する。
12	媒体を作成する③	演習	歯の本数(乳歯・永久歯)や萌生時期について学ぶ。 健康教育媒体作りの参考にする。 各ライフステージ別における食育について知る。
13	媒体を作成する④	演習	ブラッシング法・歯磨剤等についての復習し、健康教育媒体作りの参考にする。 スクラビング法における歯みがき指導の実技確認について振り返る。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P330～338
14	媒体を作成する⑤	演習	食育について復習し、健康教育媒体作りの参考にする。 各ライフステージ別の食事摂取基準について振り返る。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅲ Dentistry Health Guidance TheoryⅢ	年次	2	必修科目		実務経験		科目 責任者	久保 早和子
		授業形態	講義・演習		有				
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期		
		単位	1				曜日/時間	水/5.6限	
講師紹介	歯科衛生士として幅広い分野での臨床経験を有し、特に訪問診療にて摂食・嚥下指導を中心に高齢者施設や、在宅医療に携わってきた専任教員が教育経験を活かして歯科保健指導論の授業を行う。								
目的	ライフステージ別における適切な口腔衛生指導を実施するために必要な知識を学び、実施できるよう演習する。								
科目概要	各集団、年齢に合わせた口腔保健管理ができるように、口腔清掃方法、コミュニケーション方法、指導方法を習得し、適切な保健指導を歯科臨床に活用できるようになる。								
到達目標	口腔衛生状態をふまえて、口腔清掃方法の選択と指導ができる。 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。								
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート								
教科書	歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業の予習として、次回授業までにシラバスに目を通し、関連する内容について教科書を読み、主体的に行動するよう心構えをする。 授業形態が講義の場合、最後にその日の授業内容の小テストを行う。小テストに出題された問題は重要な部分をピックアップしているのでよく復習すること。				
参考図書	保健生態学(医歯薬出版)								
特記事項	講義内容のPowerPointを使用する場合がある。								

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	集団指導の媒体を作成する①	演習	学齢期の口腔保健指導について媒体作成計画案を考える。 媒体を完成する。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P338～344
2	集団指導の媒体作成する②	演習	歯の本数(乳歯・永久歯)や萌生時期について学ぶ、健康教育媒体作りの参考にする。 学齢期における食育について知る、指導原稿作成し、読み合わせる。 新歯科衛生士教本 歯科保健指導 P338～344
3	対象別指導法 ～要介護高齢者に対する指導法～	講義	人口の高齢化 人口の高齢化について説明することができる。 要介護高齢者について説明することができる。 介護保険制度について説明することができる。 ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアについてそれぞれ説明することができる。
4	要介護高齢者への口腔ケア	講義	要介護高齢者の一般的特徴について説明することができる。 高齢者で注意すべき全身疾患について説明することができる。 要介護高齢者の口腔内の特徴について説明することができる。 摂食・嚥下のメカニズムについて説明することができる。
5	要介護高齢者に対する指導法	講義	摂食・嚥下障害の原因について説明することができる。 誤嚥性肺炎について説明することができる。 摂食嚥下障害の症状について説明することができる。 口腔機能評価説明することができる。
6	要介護高齢者に対する指導法	講義	誤嚥性肺炎の予防法を説明できる。 器質的口腔ケアの目的を理解する。 患者の状態別の口腔ケアにおける注意点を列挙できる。 口腔ケア時の体位を理解する。
7	要介護高齢者への口腔ケア	講義	機能的口腔ケアを説明できる。 口腔機能の維持・回復を理解する。 摂食・嚥下機能訓練を理解する。 間接訓練・直接訓練を列挙できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔機能管理 Oral rehabilitation and functional	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	上田 隆介
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	水・木/5,6限
講師紹介	<p>歯科医師として臨床経験を有した講師が、多職種と連携する中で今の歯科衛生士に求められる摂食嚥下機能療法を講義する。 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、日本救急医学会ICLS認定、日本認知症ケア学会認知症ケア専門士、日本小児歯科学会所属。 訪問歯科診療に従事し、摂食嚥下障害患者に対する嚥下機能評価、食支援を行なっている。</p>						
目的	<p>嚥下障害の原因疾患や機能障害の病因、病態およびその対応法を理解し、地域の摂食嚥下障害の患者ならび家族、地域の食支援を支えるための知識を習得する。</p>						
科目概要	<p>摂食嚥下に関連する解剖・生理学および病態とその対応について。</p>						
到達目標	<p>摂食嚥下リハビリテーションについての知識を理解し、説明することができる。 必要なスクリーニング法、リハビリテーションを実施できる。</p>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	<p>授業では歯科の領域に限らず医学的な用語も多く出てくるため、講義内容をしっかりと理解するためには事前学習が30分程度必要と考えられる。 また、確認テストを通して自分の理解度を確認し、その復習の作業に15分程度要するものと考えられる。</p>		
参考図書	PC(パワーポイント)						
特記事項	【プリント(補助教材)】 講義パワーポイント資料						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	1. 摂食嚥下の機序と関与器官の生理、原因疾患について理解する 2. 摂食嚥下に関連する解剖と生理について理解する	講義	人が食物を食べ、飲み込むために必要な解剖および生理を学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
2	1. 嚥下障害の重症度分類とそれぞれの対応と予防について理解する 2. 窒息への対応と予防について理解する	講義	嚥下障害の種類について学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
3	1. 摂食嚥下障害のスクリーニング検査と診断について理解する	講義	摂食嚥下障害を検出する簡便な検査について手技と判定方法について学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
4	1. 摂食嚥下障害のスクリーニング検査と診断について理解する	講義	摂食嚥下障害を検出する簡便な検査について手技と判定方法について学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
5	1. 小児の摂食嚥下障害について 摂食嚥下機能の発達過程について理解する	講義	発達の過程における嚥下とその障害について学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
6	1. 急性期の摂食嚥下障害の原因疾患とその対応、チーム医療について理解する	講義	急性期の摂食嚥下障害患者において重要な事項を学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
7	1. 加齢による摂食嚥下機能の変化についてについて理解する	講義	近年、増加している加齢に伴う摂食嚥下障害について学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
8	1. 摂食嚥下機能訓練のリハビリテーションを理解する(間接訓練①)	講義	摂食嚥下障害患者に対して行われるリハビリテーションについて学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
9	1. 摂食嚥下機能訓練のリハビリテーションを理解する(間接訓練②) 2. 相互実習ならびに症例検討	講義	摂食嚥下障害患者に対して行われるリハビリテーションについて学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
10	1. 摂食嚥下機能訓練のリハビリテーションを理解する(直接訓練①)	講義	摂食嚥下障害患者に対応した食事指導を学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
11	1. 摂食嚥下機能訓練のリハビリテーションを理解する(直接訓練②) 2. 相互実習ならびに症例検討	講義	摂食嚥下障害患者に対応した食事指導を学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
12	1. 摂食嚥下障害の歯科的対応について理解する(PAP、PLPなど補綴学的処置)	講義	装具を用いた摂食嚥下障害の対応を学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
13	1. 摂食嚥下障害における口腔ケア前のアセスメントについて理解する	講義	摂食嚥下障害患者における口腔ケアの意義について学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
14	1. 摂食嚥下障害における口腔ケアの手技について理解する	演習	摂食嚥下障害患者における口腔ケアの実際を学ぶ。授業テーマの内容に関して概要をパワーポイントで説明後、各項目ごとに確認テストを行う。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	栄養指導・食支援論 Nutrition guidance/Food intake support	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	本橋 佳子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木/5.6限
講師紹介	歯科医師として総合病院勤務の臨床経験と、大学教員でもある教育経験を活かして栄養指導と食支援について講義・演習する。 日本大学歯学部非常勤講師 東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤研究員 公衆衛生学会 老年歯科医学会 高齢者栄養療法医の認定資格を有する。						
目的	栄養を経口から摂取することの重要性を理解するとともに、対象者に合った栄養管理や嚥下機能に応じた食事形態の支援法を実践できるようになる。						
科目概要	ライフステージごとの栄養管理や食事形態を理論で学ぶだけではなく、演習を通じて体験することによって、患者に寄り添い、適切な指導ができるようになる。						
到達目標	ライフステージに合わせた栄養摂取の特性を考慮した口腔保健指導を実践できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	講義後は配布資料と教科書を併せて復習することで理解が深まる。		
参考図書	なし						
特記事項	【プリント(補助教材)】 講義パワーポイント資料						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	妊娠期 哺乳 離乳	講義	妊娠に必要な栄養的と歯科的な問題を理解し、妊婦への口腔保健指導を学ぶ。 哺乳 離乳の概要とその障害に歯科がどう関わるかを学ぶ。
2	小児期 思春期 青年期	講義	それぞれの年代の栄養的歯科的問題を理解する。 正しい間食や嗜好品の取り方について学ぶ。
3	高齢者 要介護高齢者	講義	高齢者に関する食の問題 オーラルフレイル。 フレイルにフォーカスを当てて学ぶ。
4	嚥下食 とろみ実習	演習	嚥下食の種類物性について学ぶ。 試食や調整を行う。
5	全身疾患とのかかわり	講義	全身疾患と口腔。 栄養摂取の関係について学ぶ。
6	口腔機能評価 レクリエーション	演習	口腔機能の評価について理解し、実施できるようにする。 介護予防教室や口腔機能低下症に対する指導で行うレクリエーションを体験する。
7	口腔保健指導用の資料作製 プレゼン 講義まとめ	講義 演習	それぞれに課題を与え、高齢者対象の口腔保健指導に使用する視覚資料を作成し、皆の前で発表する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する

科目名 (英)	口腔機能支援論 Oral function/Oral hygiene management	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート株式会社 城 明妙
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月～金/5.6限
講師紹介	訪問歯科及び高齢者歯科分野で実務経験を有した歯科衛生士が担当する。病院、施設、在宅、デイサービス等で実際に口腔機能向上のために実務を行っている。また、多職種に対し多くの研修を年間100本以上実施しているチームに所属する歯科衛生士である。						
目的	口腔機能は年代を問わず生命の維持や人間らしい生き方をするために非常に重要なため、口腔機能を理解し、口腔機能の低下、口腔機能の維持等について、評価と助言が実施でき、口腔機能管理を行うことができるようになることを目的とする。						
科目概要	各世代での口腔機能について理解し、口腔機能の評価と管理について理解できるようになる。疾患としての口腔機能低下症についてアセスメントが実施でき、口腔機能管理の大切さと歯科衛生士の役割を解説する。						
到達目標	口腔機能について各年代別に理解できる。・口腔機能のアセスメントが実施できる。・口腔機能のアセスメントに必要な機器の種類や使用方法について理解できる。口腔機能が低下している方への食事や訓練等の助言ができる。・口腔機能の管理全般を行うことができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	摂食・嚥下リハビリテーション/高齢者歯科学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	1、口腔機能とはどんなことが考える。 2、介護保険制度を復習する。		
参考図書	なし						
特記事項	配布資料にても口腔機能の解説等実施						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔機能低下とオーラルフレイル	講義	1、口腔機能とは？ 2、オーラルフレイルとは？ 3、口腔機能低下とオーラルフレイル 4、口腔の組織名称と筋肉等 5、口腔それぞれの役割(演習)
2	口腔機能とは？ 口腔機能低下と口腔衛生	講義	1、口腔機能について説明できるようになる 2、口腔機能が低下した方の口腔に起こる問題点 3、口腔機能低下と口腔衛生の関係 4、症例写真から学ぶ 5、口腔機能低下がなぜ起きたか
3	口腔機能低下の原因と症状	講義	1、口腔機能低下を起こす原因について考える 2、口腔機能低下を起こす疾患 3、口腔機能低下を起こす生活習慣 4、口腔機能が起きている方の口腔に起きる症状 5、口腔機能低下が起きている方の食事や会話に現れる症状
4	口腔機能低下等のアセスメント、評価方法の内容と実践	講義	1、口腔機能低下の評価方法 2、アセスメントのとりかたと目安 3、口腔機能低下の評価(演習)
5	全身疾患の病態別 口腔内の変化と症状、及び口腔衛生管理	講義	1、全身疾患とは？ 2、全身疾患別、口腔機能や口腔の状況、変化の特徴 3、全身疾患別の口腔衛生の留意点
6	要介護状態の方の口腔衛生管理の実践と留意点	講義	1、要介護状態の方とは？ 2、介護保険制度について 3、介護保険制度での口腔衛生管理体制加算と口腔衛生管理加算について 4、歯科衛生士の介護保険施設等での役割 5、要介護状態の方の口腔内の特徴 6、要介護状態の方の口腔ケアの実践方法
7	口腔機能低下症の管理記録の作成方法と事例検討	講義	1、口腔機能低下症の管理記録の記入方法 2、事例検討：口腔機能低下を多職種連携でどのように問題解決するかをグループ討議
8	口腔機能低下と低栄養状態	講義	1、低栄養とは何か？ 2、口腔機能がもたらす低栄養とは？ 3、低栄養を見極めるために必要な情報とは？
9	口腔機能を高める口腔ケアや衛生管理の実践方法	講義	1、口腔機能が低下による影響と摂食嚥下機能 2、口腔機能を向上させるための口腔ケア実践方法 3、口腔ケアと口腔衛生管理に必要な情報とは？ 4、口腔衛生の実践方法
10	口腔管理の実践① 自立している方への口腔ケア	演習	1、口腔ケアの実践 自立している方へのアドバイス 2、自立している方に歯科衛生士として何を行うか 3、自立している方とは？ 4、自立している方への接し方(演習)
11	口腔管理の実践② 介助が必要な方への口腔ケア(移動可能な方) 特徴と留意点。移乗の方法。ボディーメカニクス。	演習	1、介助が必要な方とは？ 2、介助が必要な方の口腔ケアの内容 3、介助が必要な方の口腔ケアで注意する事 4、移乗方法 5、ボディーメカニクスの実践(演習)
12	口腔管理の実践③ 介助が必要な方への口腔ケア(ベッド上で寝たきりの方) 特徴と留意点。吸引方法。	講義	1、ベッド上で行う口腔ケアの留意点 2、ベッド上で行う口腔ケアの実践方法 3、ベッド上で行う口腔ケアを受ける方の特徴と留意点 4、口腔内の水分の吸引方法の実際
13	口腔管理の実践④ 看取り期の口腔ケア。特徴と留意点。(エンゼルケア含む)	講義	1、看取り期とは？看取り期の状態とは？ 2、看取り期に起きる口腔内の問題点 3、看取り期に必要な口腔ケアとは？ 4、エンゼルケアとは？
14	歯科衛生士が行う口腔衛生管理と口腔機能管理とは？ 多職種連携を考える。	講義	1、歯科衛生士と多職種の役割の違いと多職種連携。 2、事例検討(グループワーク)
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科放射線学 Dental Radiology	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	浅海 利恵子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月・木/5,6限
講師紹介	歯科医師として臨床経験を有し、大学教員として豊富な教員経験を活かし歯科放射線学の専門的知識と教育経験を有する講師が、歯科臨床に必要な放射線業務のについて講義を行う。 浅海利恵子: 日本歯科大学生命歯学部歯科放射線学講座・NPO法人日本歯科放射線学会(専門医)						
目的	歯科臨床において安全かつ適正に画像検査を行うために、診療補助に必要な放射線に関連する基礎的知識を身につける。						
科目概要	各種検査の方法と、その結果から得られる情報について学び、歯科臨床に応用できるようになる。						
到達目標	歯科臨床において放射線業務を適切に補助・遂行するために、放射線(特にエックス線)の基本的知識と各種撮影法を修得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	わかりやすい歯科放射線学 第3版(学建書院)			事前事後 学習と その内容	授業前に教科書を予習しておくことで、講義内容をスムーズに理解することが出来る。講義後は配布資料と教科書を併せて復習することで理解が深まる。		
参考図書	なし						
特記事項	【プリント(補助教材)】各授業ごとに配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	放射線とエックス線	講義	放射線とエックス線の基本的知識を理解する。
2	口内法エックス線撮影	講義	各種口内法エックス線撮影の特徴と手順を覚える。
3	口内法エックス線画像の正常像	講義	各種口内法エックス線画像の正常像を覚える。
4	現像処理・デジタルエックス線撮影	講義	フィルムの現像と保管方法について覚える。 デジタルエックス線撮影システムについて覚える。
5	パノラマエックス線撮影	講義	パノラマエックス線撮影の特徴と撮影手順および正常像を覚える。
6	口外法エックス線撮影・特殊撮影	講義・演習	口外法エックス線撮影と特殊撮影(CTなど)の特徴を覚える。
7	放射線の人体への影響・放射線防護	講義・演習	放射線の人体への影響について理解する。 放射線防護の理念と実際を理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	臨床検査 Clinical Examination	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	荒井 千明
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	金/5.6限
講師紹介	臨床検査技師・歯学博士・日本臨床生理学会 評議員 歯科大学病院での臨床検査技師としての豊富な実務経験を有する。歯科衛生士養成短期大学での教員経験および大学病院でに歯科研修医への教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な臨床検査の知見を講義する。						
目的	安全でより良い歯科衛生業務を行う上で、患者さんの基礎疾患等の状態を把握することの重要性を理解し、臨床検査を有効に使用する知識を習得する						
科目概要	健康診断で測定される一般的な検査と歯科診療において注意すべき臨床検査項目を生化学や生理学の知識を復習しながら解説する						
到達目標	代表的な検査項目について、その目的や変動機序が理解できる 検査結果から歯科診療において注意すべき点を考えられる 検査値を医科との共通言語として、歯科医師とともに活用できる						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	臨床検査(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	原則として授業の終わりに小テストを行う。 小テストを見直し、授業の内容を理解する。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	序説 臨床検査の概要を知る	講義	臨床検査がどのように利用されているかを考える 検査の種類概要を知る 基準値の設定方法を理解し、検査値に影響を与える因子を学ぶ 心電図とスパイログラムの基本的な読み方を学ぶ
2	貧血と炎症	講義	血液の概要を知る 赤血球の働き・動態を学び、貧血の種類による検査の違いを知る 白血球の種類・働きを学び、炎症の程度を示す検査を理解する 骨髄抑制と白血病について学ぶ
3	肝臓の検査	講義	肝臓の働きを復習する 血清酵素と臨床的意義を持つ臓器の関係を知る 肝機能と検査の関係を理解する 歯科診療において注意すべき感染症の概要を知る
4	出血性素因の検査	講義	止血機構の復習をし、出血性素因の要因を知る 一次止血に関与する検査を知る 凝固因子の異常を示す病態と検査を理解する
5	血液型・輸血 糖尿病の検査	講義	ABO式血液型・RH式血液型の検査法および判定法を学ぶ 糖尿病の検査を理解し、糖尿病患者の歯科診療時における注意点を確認する
6	尿検査 腎臓の検査 自己免疫疾患の検査	講義	尿一般定性検査の意義を理解する 血中の腎機能を反映する検査を知る 口腔領域に症状がでる自己免疫疾患の検査を知る
7	バイタルサイン 腫瘍マーカー 復習とまとめ	講義	バイタルサインとは何かを知る 呼吸数と脈拍の測定を実施し、臨床的意義を学ぶ 血圧測定の注意事項を知る 腫瘍マーカーについて概要を知る
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	臨地実習 I Clinical Practice I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	各臨地実習先指導者教員
		授業形態	臨地実習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	270	授業回数	-	開講区分	後期
		単位	6			曜日/時間	月・火・水・金・土/基本16:00～20:00
講師紹介	【各臨地実習先指導者教員】 歯科衛生に関し相当の経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも一人は免許を受けた後4年以上業務に従事し、十分な指導能力を有する者である。						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	臨地実習に臨む為の心構え・気構え・心構えと実践力を身につけ、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	①実習の集大成として三大業務を実践し、基礎力を身につける。 ②指導者の指示のもと、自ら考えて行動出来るようになる						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨地実習ノート			事前事後 学習と その内容	実習前に必ず臨地実習指導要綱を確認しておく。 また、臨床実習開始前に目標設定(各期、毎日)し、実習に臨むこと。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【プリント(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療所実習 歯科診療所	臨地実習	歯科医療現場で、歯科衛生士業務を理解し実践する。
2	歯科大学病院実習 昭和大学 歯科病院 鶴見大学 歯学部付属病院	臨地実習	歯科病院における臨床実習で各科の歯科衛生士業務に必要な事柄を理解し、実際の診療に参加および見学することにより知識、態度、技術を身につける。
3	保健所実習 保健所・保健センター	臨地実習	公衆衛生の現場にて、歯科支援を学ぶ。
4	保育所・幼稚園実習 保育所・幼稚園	臨地実習	幼児に対する口腔衛生指導を実施する。
5	小学校実習 小学校	臨地実習	児童に対する口腔衛生指導を実施する。
6	高齢者施設実習 特別養護老人ホーム	臨地実習	高齢者に対する口腔ケアおよび口腔衛生指導等の対応を学ぶ。
7	障がい者施設実習 心身障がい者 口腔保健センター	臨地実習	障がい者・障がい児に対して歯科支援の場においての対応を学ぶ。
8	地域保健実習 品川区 大田区 川崎市	臨地実習	公衆衛生の現場で健康教育等の実践をする。

科目名 (英)	専門臨床論 I Specialty Clinica I	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 理/深川 雅彦/嶋倉 史剛
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	木/5,6限
講師紹介	高橋:歯学部卒業後、歯学博士を取得。以後、大学教員として37年間、歯科医学の教育に従事。豊富な実務経験を有する。 深川:歯科大学卒業後、英国リーズ大学で学位取得。国際インプラント学会認定医。歯科医師として30年以上にわたる臨床経験を有す。 嶋倉:歯科大学卒業後、大学の歯周病学講座にて歯周治療と咬合学を学び、歯科臨床と教育に従事、豊富な実務経験を有する。						
目的	インプラント手術の術前の準備、術中の介補、術後の管理が適切に行えるようインプラント治療に必要な知識を習得する。						
科目概要	経験豊富な講師が実際のインプラント治療を行う際にアシスタントである歯科衛生士に知っていて欲しい知識や技術を伝達する。						
到達目標	インプラントの構造を説明できる。インプラント手術の様々な治療法を説明できる。術前・術中・術後に衛生士に求められる役割を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	インプラントアシスタントワーク(日本総合口腔医療学会)			事前事後 学習と その内容	スライドで多くの写真や動画を用いて、実際のインプラント手術や解剖やCT読影法など高度な内容の授業を行う。講義内容を理解するために、講義の前に教科書でインプラントの構造など基本的な知識と専門用語を覚えておく。		
参考図書	なし						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科治療におけるインプラント治療の位置づけ、ならびに特殊性を理解して、その術前、術中、術後に必要なヒト解剖学的背景を習得し、治療補助への応用を理解する。	講義	インプラント治療に必要な解剖学 インプラント手術に際して注意すべき解剖学的背景 生体と人工材料との骨結合メカニズム
2	インプラントと顎骨との骨結合に万全を期すための検査法を理解して、その検査結果を治療および治療補助へ応用する科学的根拠を理解する。	講義	インプラント治療におけるCT(コンピュータ断層撮影)検査の重要性 画像診断と手術の適合性 インプラント手術における術前管理
3	基礎疾患を有する患者のインプラント治療について、服用中の薬剤の評価、周術期における抗菌薬、および全身管理について治療補助の基礎的な考え方を習得する。	講義	全身疾患と薬剤について インプラント手術の周術期における抗菌薬の投与 インプラント治療に関わる全身管理
4	治療を成功に導くため手術法を熟知し手順を理解する必要がある。手術を先読みし術中の危険を回避し術者が円滑に手術できるアシスタントワークを習得する。	講義	インプラント治療の流れ□ インプラント埋入手術(1回法、2回法) 拔牙即時インプラント手術□ インプラント埋入手術(GBR法、ソケットリフト、サイナスリフト、スプリットクレスト)□
5	補綴時の印象法、補綴処置(セメント固定・スクリュー固定、可撤式義歯)の特徴など二次手術から補綴物装着までの流れを理解する。□	講義	インプラントの印象法と固定法 インプラント治療で起こりうるトラブル インプラント治療の注意点 手術前説明、患者来院から手術前まで
6	顎骨内に無菌的にインプラントを埋入する手術であるので器具の滅菌、手指と術野の消毒を徹底し手術環境の感染予防対策を行う必要性を理解する。	講義	手術当日の手術室の準備、手術前の手洗い、ガウンテクニック 滅菌手袋の装着・手術野の消毒 スタッフや機器類の配置、インプラント埋入手術 手術後の使用器材の後片付けと滅菌、術後の患者への説明
7	インプラント手術後に施すメンテナンス、およびプラークコントロールなど、インプラント周囲炎に対する予防措置の全体像を習得、理解する。	演習	インプラントのメンテナンスの重要性 上部構造装着後のプラークコントロール インプラント周囲炎への対処
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	専門臨床論Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目	柵木 寿男/前野 雅彦 石野 由美子
		授業形態	講義・演習		有	責任者	
(英)	Specialty ClinicaⅡ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	木/5,6限
講師紹介	【柵木寿男】歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 【日本歯科大学生命歯学部接着歯科学講座】・【専門:保存修復学】・【日本歯科審美学会等所属】・【接着歯科学研究】・【著書30冊、論文38編執筆】 【前野雅彦】歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 【日本歯科大学生命歯学部接着歯科学講座】・【専門:保存修復学】・【日本歯科審美学会等所属】・【接着歯科学研究】・【著書7冊、論文7編執筆】						
目的	良質な審美歯科医療を提供するために、臨床で求められる基本的な知識を修得する。						
科目概要	顎口腔における形態美・色彩美・機能美の調和を図り、QOL向上に貢献する歯科審美学に関する知識を習得する。						
到達目標	・審美歯科学を簡潔に説明する。 ・審美歯科を分類する。 ・審美歯科の対象疾患を列記する。 ・審美修復用いる器材を具体的に述べる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に小テストを行う。直後に問題解説を加える。回収後の翌日には返却を行い、自己の学習内容の確認に活用する。指定する教科書はないが、毎時間の配付資料は系統立てて作成されており、学習内容の補足に有益となる。		
参考図書	【プリント(補助教材)】配付資料をもって参考とする						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科医療における歯科審美学の重要性を説明する 歯科審美臨床の分類と対象疾患の特徴を述べる	講義	患者さんの多くが求める審美的な歯科治療について概説し、その現代における重要性について解説を加える。また、歯科審美臨床を分類し、各々の対象となる疾患について説明を行う。
2	審美修復に用いる無機材料、有機材料を列記する 審美修復に用いる接着材・合着材の特徴を述べる	講義	審美歯科臨床に用いる器材、特に審美修復に用いる器材について、説明する。特に、歯科衛生士として重要な器材の取扱いを具体的に述べる。
3	歯の変色症とその成因を分類する 歯のホワイトニングに用いる材料と術式を説明する	講義	審美歯科臨床の対象疾患として頻度の高い歯の変色症について、その原因、対処法を類別する。また、対処法のひとつである歯のホワイトニングの実際について述べる。
4	審美修復における歯冠修復の要点を説明する	講義	審美歯科臨床のなかでも著しい進歩を遂げている歯冠修復について、その特徴や要点について説明する。
5	歯科審美臨床の具体的な対応を列記する	講義	審美歯科臨床の実際の症例について、口腔内写真や使用器材を紹介しつつ、臨床的対応の詳細を説明する。また、歯科衛生士としての審美歯科への適切な対応について、具体例を挙げて述べる。
6	口腔筋機能療法(MFT)の概要を理解する	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔筋機能療法(MFT)とは ・正しい舌位とは ・口腔習癖について ・口腔習癖が影響すること ・指しゃぶりについて ・舌や口唇などの口腔周囲筋の不調和による影響と訓練による効果について
7	口腔筋機能療法(MFT)の応用を理解する	講義 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔周囲筋の不調和による影響と訓練による効果の実際を知る ・歯科臨床におけるMFTの応用—口腔機能を高める口腔衛生および保健指導など
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	実習指導教育 Clinical Practice Training	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	久家 理恵 / 花田 瑞恵
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	火・水・木/5.6限
講師紹介	<p>歯科予防処置論専任教員、歯科衛生士である教員が、臨床経験・実務経験を踏まえ、授業展開を行う。 臨床実習に向けて不安に対する実習教育を通し、身構え、気構え、心構えを理解習得し、実習の準備を行う。</p>						
目的	<p>歯科衛生士像を構築することで、歯科医療の基礎となる知識を総合的に習得する。</p>						
科目概要	<p>歯科衛生士の役割や使命を明確にするため、歯科臨床で担当する法的に定められた業務について学習資料を通じた講義や演習で総合的に学ぶ。</p>						
到達目標	<p>臨床現場での歯科診療の流れを理解する。 臨床実習に向けて安全に実習が行えるよう、歯科医療安全・医療管理を理解し、実習準備ができる。 臨床実習における身構え、気構え、心構えを理解・習得する。</p>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	配布資料、歯科診療補助論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	<p>予習として事前に配布資料の対応項目に目を通すことが望ましい。 さらに復習としてその日に講義した資料を読んで復習することが望ましい。</p>		
参考図書	なし						
特記事項	【プリント(補助教材)】講義ごとにプリントを配布する。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臨床実習の心構え、歯科診療補助①	講義	臨床実習の目的 臨床実習の流れについて 歯科診療補助 ①
2	臨床実習の心構え、歯科診療補助②	講義	歯科診療補助 ②
3	臨床実習指導①	講義	臨床実習要綱 臨床実習定期申請について 臨床実習配属発表(予定)
4	臨床実習指導②	講義	考察の書き方実習ノート、ケースノートの記入、提出について レポートの記入方法、提出について
5	臨床実習指導③	講義	I期実習目標の記入 自己紹介書の記入 実習要綱配布(臨床実習概要とルール) I期実習スケジュール配布
6	臨床実習指導④	講義	偶発事故について 針刺しについて
7	臨床実習指導⑤	講義	症例検討を行い、歯科衛生過程の各プロセスの具体的な内容を理解することができる。 事例検討 歯科衛生過程の各プロセスの具体的な内容を理解し、症例を使いながら演習を行う。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	国際教育 International Education	年次	2	必修科目	実務経験	科目 責任者	久家 理恵/花田 瑞恵
		授業形態	演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	単位	1			曜日/時間	
講師紹介	歯科衛生士としての臨床経験を有した講師が教員経験を踏まえ、国際教育の講義・演習を行う。						
目的	異文化への理解を深めることにより国際的に活躍できる歯科医療人材としての観点をもてるようになる。						
科目概要	国際的なボランティア活動の内容を知り、広い視野で物事を捉える国際的な感性を養い、グローバルな人材について興味を持つ。						
到達目標	国際的なボランティア活動について理解する。 各国の文化、歯科事情、歯科衛生士の業務内容について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	日常生活においても積極的に文化に関わり、興味関心を持つこと。		
参考図書	必要に応じて、授業内で紹介する。						
特記事項	なし						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	各国の文化	演習	興味関心のある国を選択し文化について調べまとめ理解を深める。
2	各国の歯科事情	演習	興味関心のある国を選択し歯科事情について調べまとめ理解を深める。 グループ毎に発表を実施する。
3	国際ボランティア①	演習	世界の現状や課題、国際協力について知り、理解を深める。 これまでの開発途上国での国際協力について考える。
4	国際ボランティア②	演習	ラオスにて歯科医療ボランティアに従事する、歯科衛生士の体験を通じて歯科医療事情についての理解を深める。
5	オンライン海外研修①	演習	スウェーデンの文化について理解を深める。
6	オンライン海外研修②	演習	スウェーデンの歯科事情について理解を深める。
7	オンライン海外研修③	演習	スウェーデンのデンタルクリニック オンライン視察 歯科衛生士業務について理解を深める。
8	定期試験		レポート作成、提出